

4 科目概要・取り組みと改善点（講義・演習科目）

1 年生

科目名	現代文明論Ⅰ	科目責任者名	小川 景子	対象・開講時期	1 年生・前期
実施状況					
<p>「現代文明を考える」というテーマで、現代文明とそれがもたらした問題について、様々な視点から考え現代に生きる人間として、何をなすべきかを考えることをねらいとしている。</p> <p>講義は、「建学の精神と現代文明論」「現代文明の光と影」「文明の未来を考える」の枠組みで構成し、各回専門の講師が講義を行っている。</p> <p>講義終了後は、受講用紙を記入することで、講義内容をまとめ自己の考えを整理する機会としている。</p> <p>最終回は、「現代文明を考える」というテーマで自己の関心ある内容に焦点をあて（サブテーマ）、課題レポートをまとめグループで意見交換を行った。</p>					
教員自身の授業評価					
<p>授業アンケート（自由記載）では、「様々な視点から学ぶことができた」「様々な分野の学習ができて良かった」「多くの事について知れた」などの意見があった。また、「Q5 自分にとって新しい考え方、発想がもてた」は、平均 3.5 である。これらのことは、様々な視点から現代に生きる人間として何をすべきか考える、という本講義のねらいに繋がる。</p> <p>学習環境として「Q4 授業中私語なく、集中できた」は平均 3.76 で、本科目のアンケートの中で最も高い数値を示している。本講義は毎回、現代文明論委員会の委員が 2 名ずつ授業支援していることが、この結果につながったものと推察する。</p>					
これからの授業に対する目標					
<p>本科目の目的は、知識習得のみならず学生一人ひとりが自己をとりまく社会に関心を持ち、授業内容を踏まえて自己の考えを深めることにある。学生が、授業目的を理解して自ら学び考える力を培えるよう、様々な機会を利用して動機づけを行っていく。また、現代文明論委員会の活動を通して、学生の学習環境を調整していきたい。</p>					
学生への要望					
<p>現代文明論の講義で学ぶことは、学生の皆さんが現代社会において物事を考える基盤となるものです。講義を聴いて終わりとせず、紹介された本を読むことや関心を持ったことを自ら調べることで、学びを発展させていってください。</p>					

科目名	現代文明論Ⅱ	科目責任者名	小川 景子	対象・開講時期	1 年生・前期
実施状況					
<p>「生活を科学する」というテーマで、生活を多方面からとらえ、未来に向けて自分は何をすべきかを考え、自らの考えを培っていくことをねらいとしている。</p> <p>講義は、「生活を豊かに」「生活と社会」「未来に向けて」の枠組みで構成し、各回専門の講師が講義を行っている。</p> <p>講義終了後は、受講用紙を記入することで、講義内容をまとめ自己の考えを整理する機会としている。</p> <p>最終回は、「生活を科学する」というテーマで自己の関心ある内容に焦点をあて（サブテーマ）、課題レポートをまとめグループで意見交換を行った。</p>					
教員自身の授業評価					
<p>授業アンケート（自由記載）では、「興味深く新しい発想を持つことができた」「様々な視点から考えることができた」「身になる講義がたくさんあった」などの意見が複数あった。また、「Q5 自分にとって新しい考え方、発想がもてた」は、平均 3.91 である。これらのことは、生活を多方面からとらえ未来に向けて自分は何をすべきか自己の考えを培う、という本講義のねらいに繋がる。</p>					

「Q18 分かりやすい授業だった」が平均 3.81、「Q20 この授業で学問的興味をかきたてられた」が平均 3.82 と、いずれも現代文明論 I より高い数値を示している。本講義は、「生活を科学する」というテーマで身近な生活と関係することも教授されたため、講義内容をイメージしやすかった点が関係していると推察される。
これからの授業に対する目標
本科目の目的は、知識習得のみならず学生一人ひとりが自己をとりまく社会に関心を持ち、授業内容を踏まえて自己の考えを深めることにある。学生が、授業目的を理解して自ら学び考える力を培えるよう、様々な機会を利用して動機づけを行っていく。また、現代文明論委員会の活動を通して、学生の学習環境を調整していきたい。
学生への要望
現代文明論の講義で学ぶことは、学生の皆さんが現代社会において物事を考える基盤となるものです。講義を聴いて終わりせず、紹介された本を読むことや関心を持ったことを自ら調べることで、学びを発展させていってください。

科目名	文化人類学	科目責任者名	鳥塚 あゆち	対象・開講時期	1 年生・後期
実施状況					
授業は、各回で設けたテーマについて世界の様々な事例を提示しながら展開し、新たな視点から総合的に人間を理解することを目指した。					
教員自身の授業評価					
授業の冒頭でテーマに関連する簡単な問いを設け、学習前後での理解の差に気づけるよう配慮した。グループワークでは活発に議論ができ、発表も積極的に行うことができた。					
これからの授業に対する目標					
来年度は授業を担当しない。					
学生への要望					
観念的なことなど目に見えないことを自分なりに理解し、自分の言葉として文章にする練習が必要だと感じた。					

科目名	地球環境と科学	科目責任者名	岡田 工	対象・開講時期	1 年生・後期
実施状況					
地球環境を科学的に解明する授業である。宇宙誕生から地球の成り立ち、身の回りの状況を理解してもらい、今起きている地球環境の問題を理解してもらう。					
グループワークや実験なども取り入れ、わかりやすい授業を心がけた。様々な図を準備し、配布した資料を使って説明した。公害問題などグループを作り、話し合いを行い、発表を行った。					
教員自身の授業評価					
幅広い分野の科学的内容が盛り込まれていて、学生の理解度をあげることができなかった。内容をわかりやすくするため、図など利用したが、スライドの枚数が多くなってしまい、配布資料の文字が小さくなってしまった。					
実験について評価が良く、学習内容を印象的に記憶できるツールとして、今後も取り入れていきたい。					
グループワークは、回数が限られており、今後をもっと回数を増やす必要があると思われる。					
学生の理解度をあげるためには、内容の要点を絞りながら進めていく必要があると思われる。					
これからの授業に対する目標					
もっと科学を身近に感じることができるように入ロダクシヨンからトピックスに向けて結びつきの強い授業内容にしていく。特に具体例を多く導入し、生活と結びつく授業を作り上げたい。					
また、見やすい配布資料を作成し、学生の理解を深めていく。適宜、実験も取り入れ、学生の興味を伸					

<p>ばしていく必要がある。</p> <p>授業の振り返りとしてグループワークを行い、学習の定着度を上げたいと考える。</p>
<p>学生への要望</p> <p>生活の中にある科学を勉強する授業である。様々な社会現象を科学的な考え方により、予測や対応していくことにより、生活が安定していく。</p> <p>授業で学んだ内容だけでなく、いつも幅広い視野を持ち、科学的に物事を判断する力を身につけて頂きたい。</p>

科目名	芸術と表現	科目責任者名	中村 朋子	対象・開講時期	1年生・前期
<p>実施状況</p> <p>「芸術と表現」は基礎教育科目・総合教育科目の一環として、ヨーロッパ美術史・思想史を主題とする講義を行っている。本科目が重視しているのは、学生に主専攻分野とは異なる学問の世界、人間文化の世界を提示することによって、彼らが知識を身につけるのみならず、人間や社会に対する多角的な理解や豊かな感受性を養えるよう促すことである。</p> <p>そのために、まずできるだけ多様で、かつ歴史的にも重要な芸術作品を選定し、それらの鑑賞や社会的背景等についての学習を通して、毎回異なる人間や社会の一面に触れることができるよう工夫している。また、自らの眼で作品と向き合うことで洞察力や発想力を、自分の気づいたことや学んだことを発言したり、文章に表したりする機会を多く設けることによって、表現力や思考力、他者への適切な伝達力を身につけられるよう配慮している。</p>					
<p>教員自身の授業評価</p> <p>項目別回答では特に「Q9 シラバスが役に立った」が3.50、「Q8 学習の到達目標が達成できた」「Q14 質問や相談ができるよう配慮されていた」が3.75と低かった。シラバスに関しては必要な情報は記載したものの、学生に自発的な学習を促すという意味では情報不足であったと思われる。到達目標についても、やや文言が難しく、抽象的で理解しづらかったのではないかと考える。</p> <p>また、「Q20 学問的興味」「Q21 満足度」では数字が割れており、全体的な興味・関心を呼ぶには至らなかったと思われる。自由記載では「毎回新鮮な授業内容で面白かった」「色々な作品が見れて、自分の芸術への価値観が変わった」など肯定的な評価が多く、特に関心の高い学生には、教員の意図がある程度伝わっていたのではないかとと思われる。</p>					
<p>これからの授業に対する目標</p> <p>全体的に、一学期間を通じて学生の関心度や理解度に差がついてしまったこと、その差がさらに関心の低下を招くという悪循環に陥ってしまったことが反省点として挙げられる。</p> <p>今後はより多くの学生が関心を継続できるよう、取り上げるトピックや課題の難易度、資料の提示方法などを工夫したい。他方、高いレベルにいる学生には自分の知的関心をより深められるような機会を提供し、全体の雰囲気向上するようなクラスにしてゆきたい。</p> <p>また、学習の到達目標をより具体的に示し、学生が自らの学習成果をより実感できるような授業づくりを意識したい。質問や相談がしやすいよう、授業後に時間を確保するなど対応を考えたい。</p>					
<p>学生への要望</p> <p>この授業はすぐさま役に立つ具体的な知識を得ることを目指すというよりも、すべての基礎となるような根本的な思考力や洞察力、表現力や感受性といった、いわば「無形の力」を養うことを目標としています。広い視野と柔軟な心を持つことは、これからの社会で生きていく人々にとって、職種を問わず重要なことであると思います。</p> <p>テーマは芸術ですが、専門領域ではなくとも学習に難しさを感じることがないように、さまざまな資料などを用いて、できるだけわかりやすく授業を進めていきます。毎回の授業に集中して作品と向き合い、知識や情報を集め、自ら言葉と感性を養ってください。</p>					

科目名	コミュニケーションと対人関係	科目責任者名	横山 孝行	対象・開講時期	1年生・前期
実施状況					
<p>本科目は、人間関係に関する基本的な理論的知識の獲得、自他を尊重した自分なりコミュニケーションスタイルの確立、良好な対人関係について考える力の涵養を目指した授業であった。毎回の授業では、特定のテーマに関する講義とグループワークをセットとして、受講生の学習を促進するように設計した。その結果、ほとんどの受講生は毎回出席し、講義内容を自身と関連づけて主体的に理解する姿勢を持ち、グループワークでは積極的に発言・協力していた。</p>					
教員自身の授業評価					
<p>昨年度の本科目の改善点として、理論的概念の理解を促す説明の工夫があげられていた。そこで、具体例や図表を用いた説明などの工夫を行った。また、毎回の振り返り用紙に質問や疑問点などを書いてもらい、翌週コメントをつけて個別に返却した。その結果、受講生にとって初見の用語・概念であってもスムーズに理解できた様相が、授業アンケート結果からうかがえた。そのため、今回の工夫はある程度の成果が得られたと考えられる。</p>					
これからの授業に対する目標					
<p>わかりやすい説明などを今後も維持すると同時に、最新の研究知見や概念などを取り入れ、これまで以上に受講生の知的関心を高めることを目指す。</p>					
学生への要望					
<p>授業内で得た学びや気づきを日常の人間関係の中で活用し、自身の人付き合いの特徴や傾向などについて理解を深めることが必要です。</p>					

科目名	発達心理学	科目責任者名	古志 めぐみ	対象・開講時期	1年生・前期
実施状況					
<p>本科目では、以下3点を目標とし組み立てた。</p> <p>①人間の誕生から始まり死に至るまで、各発達段階の特徴及び、直面する課題等を生涯発達・発達臨床心理学的な視点から理解する。</p> <p>②自分自身のこれまでの発達を振り返り、体験的に考え、自己理解・他者理解を深める。</p> <p>③様々な人との関係作りの基礎ひいては、看護師に必要な職業的な人間理解を考える。</p>					
教員自身の授業評価					
<p>事前学習のテキスト購読を前提とし、授業を進行した。そのため、学生の理解度が二極化する傾向にあった。また、講義中心となり知識の習得に重きがいったため、目標③の達成が不十分となった。</p>					
これからの授業に対する目標					
<p>講義に加え、グループワークなど得た知識を活かして考える時間を取り入れ、生きた学習へとつなげていけるようにする。</p>					
学生への要望					
<p>事前に、テキスト該当章を購読し、授業に臨んでほしい。</p>					

科目名	ことばと表現	科目責任者名	工藤 文	対象・開講時期	1年生・前期
実施状況					
<p>本講義では、基本的なレポートの執筆方法と適切な引用方法の習得を目指した。以下の三点を重視し講義を行った。</p> <p>①学生の理解度に留意しながら講義を進めた。本講義では、課題提出を中心とした講義を行った。学生が毎週課題に取り組むことで、文章作成に関する技能を、少しずつ段階を経ながら学習できるようにした。さらに、学生の提出した課題を毎週チェックすることで、学生の達成度合いを確認しながら講義を</p>					

<p>進めた。</p> <p>②学生とのコミュニケーションの機会を設けた。メールでの相談や、講義後に時間を設けて質問を受け付けるなど、積極的に学生の質問や文章作成に関する相談に答えた。</p> <p>③情報リテラシー教育を行った。講義ではデータの読み方の注意点やインターネットの擬似世論調査などの問題点を議論し、学生の情報リテラシー能力の向上を目指した。</p>
<p>教員自身の授業評価</p> <p>全体評価として、授業以外に学習した時間が一週間に一時間以上の学生が半数を超えることから、学生が積極的に講義に取り組んだことがうかがえる。自由記述ではレポートの執筆方法などについて学ぶことができたという記述が多く、講義の意図が伝わったと感じる。</p> <p>上記の実施状況で目指した、①学生の授業理解度に留意しながら進める点は、次の点で平均より高く、おおむね評価されたと考えている。具体的には「Q10 教員の説明は理解しやすかった 4.31」、「Q13 学生の反応や理解度を考慮しながら授業を進めていた 4.19」である。</p> <p>さらに、②学生とのコミュニケーションについても、授業アンケートと自由記述からおおむね達成できたものと理解できる。授業アンケートでは「Q14 質問や相談ができるよう配慮されていた 4.19」と平均より高かった。自由記述では質問しやすい環境が整えられていたとの感想が述べられていた。</p>
<p>これからの授業に対する目標</p> <p>授業アンケートの結果から、次の点で改善を行うことを目標にする。</p> <p>第一に講義環境の改善である。本講義ではグループ・ディスカッションの機会を多く設けるようにした。しかし、「Q04 授業中私語なく、集中できた 3.94」は平均より低く、ディスカッションと講義のメリハリがつくように講義を改善する必要があると考える。</p> <p>第二に専門性の高い内容をわかりやすく伝えるように講義内容を改善する。例えば、「Q20 この授業で学問的興味をかきたてられた 4.10」であった。ここから、本講義はレポートの執筆方法や引用方法といった基礎的な内容であるが、講義内容を専門的に深めることが必要であると感じた。具体的には「実施状況」で述べた③情報リテラシーに関して、現実の問題と絡めることで本講義をきっかけに学問的な問題に興味を持つよう内容を改善したい。</p>
<p>学生への要望</p> <p>本講義で学習した内容を他の講義でのレポート作成に役立ててください。とりわけ、引用のルールに従ってレポートを作成するように留意してください。引用を行うことは自分の主張を発展させることでもあります。本講義を、論理的に考えまた表現する力を身につけるきっかけとしてください。本講義で学習する Microsoft Word についても日常生活で積極的に役立ててください。なお、Word の使用方法について説明を行いますので、履修を考える新生でパソコンが苦手であっても受講も歓迎します。</p>

科目名	国際理解とデンマーク看護研修	科目責任者名	小川 景子	対象・開講時期	14KF・15KF 生 夏季集中
実施状況					
<p>「諸外国の異文化に触れ、そこから日本を考える機会にする。主にデンマークの社会・文化・福祉および医療や看護の実際に触れ、これからの医療のあり方、自己のあり方について考えを深める機会とする」ことを目的として、デンマークで2週間の研修を実施した。</p> <p>今年度は、1年生16名が参加した。前半は、東海大学ヨーロッパ学術センターを拠点に、コペンハーゲン周辺にあるグルントヴィ国民高等学校、デンマーク看護協会、ホームドクター、森の幼稚園などを訪問した。後半は、本学と学術提携をしている VIA University College シルクボー健康科学部に拠点をおき、デンマークの看護大学における教育について講義を受け、病院、患者ホテル、高齢者用モデルハウスなどを見学した。また、学生同士の交流会や VIA の先生のお宅の夕食会にも招待していただき、デンマークの生活や文化にも触れることができた。</p>					

<p>学生は、日本と比較しながら様々な体験をし、多くの学びを得ていた。研修の最後には、現地でお世話になった先生や看護師を招待して、学生主催のサンクスパーティを開いた。学生の手で企画し、運営することで、お互いに協力して1つの事を成し遂げる機会となった。</p> <p>帰国後は、研修報告レポートの作成及び、飛鷗祭において研修の学びを口頭・掲示で発表した。</p> <p>研修前の事前学習から、実際の体験、学びの整理、発表という経過の中で学生は自己の生き方やあり方を考える機会にもなっていた。</p>
<p>教員自身の授業評価</p> <p>研修後アンケート（他の科目の授業評価アンケートとは異なるアンケート）では、5段階評価で平均4.5であった。こうした高い数値を示した背景には、研修内容が充実していたこと、研修内容を踏まえ事前学習を行ったこと、研修において通訳・案内をして下さった方や現地の大学・施設の方々が、きめ細かい配慮をして下さったことがあると考えられる。</p>
<p>これからの授業に対する目標</p> <p>本研修は、研修先の施設での見学や体験から多くの事を学び、その後の学習の動機づけや幅広い視点から物ごとを考える契機になっていると思われる。さらに、事前学習や研修中の集団生活、パーティの企画運営等を通して、学生間で協力することや自ら考え行動することの大切さを、実感する良い機会となっている。</p> <p>今後も、こうした学生の主体性や個々の持つ力を引き出せるような教育的支援を大切にしていきたい。</p>
<p>学生への要望</p> <p>本研修に参加しデンマークの看護や福祉について学び、その後の学習において日本とデンマークを比較しながら考えることで、より広い視点から医療や看護等を学ぶ事につながると思います。この研修は、将来看護師として働くようになってからも活かすことができる貴重な経験となります。多くの学生のみなさんが、このデンマーク看護研修に積極的に参加されることを期待しています。</p>

科目名	情報検索と活用	科目責任者名	望月 好子	対象・開講時期	1年生・前期
実施状況					
<p>本科目は基礎教育科目、情報科目に位置付き、選択必修科目である。今年度は、Iクラス37名、IIクラス42名、計79名の学生が履修した。</p> <p>本科目では、情報リテラシー、看護における情報管理、著作権や個人情報保護について、データベースを用いた医学文献検索方法、表計算・プレゼンテーションソフトの基本的活用法を学習したのち、グループごとに関心のあるテーマについて、文献検索整理したものを発表し共有学習した。また、付属病院の協力を得て、実際の電子カルテ操作に関する演習の機会をもった。今年度より、基本的な知識の確認のための試験（定期試験内試験）を評価方法に導入した。</p> <p>PC操作に関しては、学生個人のレディネスが同一ではないために、特に授業のペースに遅れがちな学生へのサポートが必要であった。情報検索に関する演習では、以前よりPC実習室のネット環境が非常に悪く、授業の進行に支障をきたしていたため、PC本体の機器に関しては新しいものに更新してもらったが、ネット環境は変わらなかったため、学生の検索作業は時間がかかり、スムーズな進行が難しかったが、図書館職員の協力を得て実施した。</p> <p>授業アンケートにおける全体評価のポイントは3.38であった。</p>					
教員自身の授業評価					
<p>項目別回答では、すべての項目が全体平均より低く、学生の満足度は低かった。「Q9 シラバスは役に立った 3.01」「Q20 学問的興味をかきたてられた 3.14」は特に低い結果であったが、自由記載では「パワーポイント・エクセルの使い方がわかってよかった」「わからないところを質問しやすかった」「プリント（授業資料）がわかりやすかった」「学生を気にしながら進めていたのがよかった」「質問に丁寧に答えてくれた」「グループで調べたことを発表するのが良かった」「全員の操作が終わるのを待っていてくれてよかつ</p>					

<p>た」「パソコンに興味を持てるようになった」「実際の電子カルテに触れられてよかった」など 45 コメントあった。一方、改善点に関する意見については、「授業スピードが速い (10)」が最も多く、「ワードについても教えてほしい」「シラバスを見て学生一人一人が予習してから授業に取り組むように促すと良い」「論文検索システムを利用する目的がよくわからない」「ネット接続が遅く使いづらい」等 31 コメントであった。</p> <p>授業評価の総合ポイントが非常に低かったことは、具体的な授業内容（演習含む）が学生のレディネスにあっていなかったことが考えられる。特に PC 操作演習になれない学生にとっては、進むペースが速く感じられてしまうことが考えられる。1 年生の前期における授業であることや、PC 操作が苦手な学生と得意な学生との差を考慮し、授業内容・方法の再考が必要であると考えられる。</p>
<p>これからの授業に対する目標</p> <p>自己学習時間に関しては、授業時間以外の学習時間は、3 時間以上 1 名、2 時間～3 時間未満 3 名、1 時間～2 時間未満 8 名、1 時間未満 25 名、0 時間 41 名という結果であり、授業外学習時間が非常に少ない現状である。特に PC 操作などは、自己練習として課外活動時間に取り組んでほしい内容であるが、課題等がないと自主的な取り組みは最小限になると思われるため、適切な量と内容の課題設定が必要であると考えられる。また、上記したように全体的な授業評価結果を真摯に受けとめ、授業方法を工夫していきたい。</p>
<p>学生への要望</p> <p>この科目は、科目責任者だけでなく、学長、図書館職員、付属病院の情報システム課の職員、看護部職員等、複数の方々からのご協力を得て実施している。授業内容への関心や理解を深めるために、学生自身も努力する姿勢をもってほしい。</p>

科目名	情報の処理と分析	科目責任者名	須藤 真由美	対象・開講時期	1 年生・後期
実施状況					
<p>情報の処理と分析として、コンピュータ処理ができることが最低限である。そこで導入部分でコンピュータ操作を同一レベルになるよう学習した。</p> <p>次に例題をもとにアンケート収集、エクセルへの入力方法を学び、統計への導入とした。</p> <p>統計では理論として記述統計と推測統計を行った。理論では分析結果を実践的にするために具体的なデータを与え、様々な分析方法を学習し、最後の課題として簡単な研究論文を作成できるようにした。</p>					
教員自身の授業評価					
<p>項目別回答では、「Q4 授業中私語なく、集中できた 3.89」が低値であった。私語については、コンピュータ操作中に不明箇所を周囲に聞いたりしている学生が見受けられたが、「Q13 学生の反応や理解度を考慮しながら授業を進めていた 4.44」「Q14 質問や相談ができるよう配慮されていた 4.44」などが高値であったためある程度対応できたのではないかと考える。</p> <p>「Q9 シラバスは役にたった 3.11」も低値であるが、履修学生のコンピュータ操作能力がまちまちであったので、導入時にコンピュータ操作を取り入れたためシラバスにずれが生じたためと思われる。全員が同一レベルで授業開始できないため、その学年の履修学生の能力をみながら進めていきたい。</p> <p>「Q18 この授業はわかりやすい授業だった 4.44」「Q17 この授業を受けて満足した 4.44」の評価で授業の意図が学生に伝わったのではと思う。</p>					
これからの授業に対する目標					
<p>統計そのものは難解な言葉が多いが、それをわかりやすく伝えられるよう事例を交えて一層工夫していきたい。専門科目ではないため時間外の負荷がかからないようにと授業前後の予習復習については指示していなかったが、復習については指示に工夫していきたい。</p>					
学生への要望					
<p>授業は毎回の積み重ねです。研究発表するための様々な知識、分析にふれていくので、毎回の授業内容をその都度しっかり理解してください。また復習をすることで知識がしっかり入ります。</p>					

この科目により統計に関心が深まり、自力でデータを分析・発表する能力が身につくと思います。過去の学生より「研究に自信がついた」との言葉がありました。わかりやすい授業を進めていきます。

科目名	英語：スピーキング	科目責任者名	J. P. Mudryj	対象・開講時期	1年生・前後期
実施状況					
This class aimed to introduce students to the most common conversational English grammar structures and vocabulary. Through pair work and group activities, including presentations, students engaged in a variety of stimulating practice exercises. Students were also encouraged to try to use the various language skills and strategies in independent tasks.					
教員自身の授業評価					
The students seemed to enjoy the class and the materials presented in the syllabus. If possible, it would be beneficial to incorporate more nursing related English activities in the future.					
これからの授業に対する目標					
In addition to incorporating some nursing related English activities, including vocabulary and role-plays, more material suitable for independent home study and practice will be introduced in the future.					
学生への要望					
Students should make more efforts to review the material covered in class at home. This will help students to better retain new vocabulary and grammatical structures, and would help their English skills to progress even further. Also using English exclusively in the classroom environment could help students become more comfortable and confident when using spoken English.					

科目名	英語：ライティング	科目責任者名	宗藤 悦子	対象・開講時期	1年生・前後期
実施状況					
看護学生の生活を綴った英文を読み、それに倣って自分のことを英文で書く、という作業を繰り返しました。生活、旅行、家族、趣味といったテーマ毎に、まず、英文を丁寧に読み、語彙、構成理解、文法確認などの練習問題をやってから、まとまった英作文をし、次の授業で添削、返却されるという一連の作業でした。 テーマが多く、作文提出の頻度も高かったにも関わらず、全員が何とか最後までやり抜きました。					
教員自身の授業評価					
学生の理解度に差があり、教科書の内容も豊富で、楽しく進歩を実感できた学生もいた反面、ついていくのが辛かった学生もいたようです。 何とか全員が最後までやり切り、それなりの達成感はありましたが、返却された作文をしっかり復習する余裕が持てなかった学生もいました。全体的に、少し欲張りすぎた内容だったと反省しています。					
これからの授業に対する目標					
英文を基礎から正確に理解し、しっかりとした作文力を育てたいと思います。 辞書の引き方、予習復習の仕方、ノートの取り方など、基本的な勉強法を指導し、一人一人の問題点を把握するため、作文添削に加え、ノートチェックも取り入れます。					
学生への要望					
予習をして、疑問点を自覚して授業に臨むこと。 疑問点を質問して、一つ一つ解決していくこと。 授業で身に着けたことを復習で確認すること。 自分の英語力を自覚し、進歩を実感しながら取り組むこと。					

科目名	英語：リスニング	科目責任者名	飯沼 好永	対象・開講時期	1 年生・後期
実施状況					
<p>4 限、5 限と 2 時間続きの授業ですので、日常英会話を主体としたリスニング活動と病院内での英会話を主体としたリスニング活動と内容を分けて授業を行いました。</p> <p>英語リスニングが苦手な学生でも前向きに取り組むことができるように、断片的な理解でも答えられる設問のある教材も使用し、その後より詳細な理解ができるようになるためにプリントを使用してディクテーションを行い、必要に応じて英語表現の構造に関する説明も行いました。授業内だけでは英語の音声に触れる機会が少ないので、予習プリントを使い、音声ファイルを授業外でも聞き、英語の音声に触れる時間を増やすように心掛けました。</p>					
教員自身の授業評価					
<p>項目別回答では、「Q4 授業中私語なく、集中できた 3.58」と平均より低い数値であった。2 時間続きの授業で、リスニング活動だけでは集中力が持続しないことも考えられるため、今後は、病院内で使われる英語表現を定着させるためにもペアワークを取り入れ、集中力を持続できる工夫をしていきたいと思います。</p> <p>「Q14 質問や相談ができるよう配慮されていた 4.58」は、英語に対して苦手意識のある学生でも気後れすることなく授業に参加し、英語力向上の手助けとなったのではないかと思います。</p>					
これからの授業に対する目標					
<p>日常生活の様々な場面における英会話を踏まえ、英語リスニングの力を向上させながら、病院内で使われる英語表現をより多く取り入れていきたいと思います。</p> <p>リスニングした英語表現を学生自身がしっかりと身につけられるように、ペアワークを行う時間を設けていきたいと思います。</p> <p>総合的な英語力の向上のためにも、基本的な英文法を用いながら日本語とは異なる英語の文構造にも言及し、英語表現の定着につなげていきたいと思います。</p>					
学生への要望					
<p>日常英会話だけでなく、病院内で使われる英語表現も取り入れていますので、将来、病院で外国人の患者さんと接するときの基本的な英語表現を身につけることができると思われまます。病院内の状況は様々ですので、基本的な英語表現から状況に応じた適切な表現を作り出すためにも、基本的な英語の文構造に関する知識（基本的な英文法）に対しても理解を深めていくようにして下さい。</p> <p>（英語は、中学校、高校と最低でも 6 年間学習してきた科目ですが、英語に対して苦手意識のある学生でもリスニングの場合は、断片的な理解でも分かる設問もありますので、前向きな気持ちで取り組み、授業を通してより詳細な理解ができるように心がけて下さい。）</p>					

科目名	英語：リーディング	科目責任者名	広野 晃子	対象・開講時期	1 年生・後期
実施状況					
<p>火曜 4 限：Skills for Better Reading- Structures and Strategies（構文で読む英文エッセイ）使用。全 13 課中 1 課～7 課終了。各課 Reading1 で全体の構造を把握する訓練をし、課内の設問でさらに内容の確認。次に Reading2 に於いて構造で読む力をさら発展させた。</p> <p>火曜 5 限：Well-Being（福祉系学生のための総合英語）使用。全 15 課中 4・9・2・3・5 課終了。各課の Pre-reading Exercise で本文前の予習を行い、本文では今日的福祉関係の問題をテーマとする内容をじっくりと読み進めた。（ノーマライゼーション、イギリスにおける社会福祉—アメリカとの対比、高齢者の栄養摂取、寝たきり老人ゼロ作戦、認知症対応型共同生活介護など）本文に付随した設問でさらに内容を確認。また、各課の最後の福祉に関する Dialog を聞き、読み、設問を説かせた。</p> <p>4 限 5 限いずれも授業中 CD 使用。</p> <p>この間、ノーベル医学賞受賞者の記事を英字新聞で読む。</p>					

教員自身の授業評価
<p>各テキストが期間内に最終章まで読解できるようにシラバスでは配分したが、各章の量と難易度で、各授業内で詳しく解説したため、一章につき2～3日を要した。従ってシラバスで報告した日付けと内容が大幅にずれた。</p> <p>英文テキストの解説ではかなり丁寧に分かりやすく説明を試みたつもりであるが、予習の段階で次回分担当所を指名しないで漠然と予習を要求したため、学生に訳をさせる段階でかなりの時間を要した。計画的に配分を充分しておくという考慮が欠けていたように思われる。</p>
これからの授業に対する目標
<p>各章で扱うテーマをさらに深く理解するためには、シラバスの日付通り進行することが困難な状況に陥る可能性はあるが、前年以上に章を多く読み進めるべく、時間の配分と授業の進め方に工夫を凝らしたい。</p>
学生への要望
<p>各テキスト内には重要単語の意味と解説が記載されているため、予習の負担はかなり軽減されると思われる。従ってじっくり課題に取り組めるものと期待する。また予習、復習では繰り返しの音読を勧めたい。</p>

科目名	フィットネス理論・実習	科目責任者名	大津 克哉	対象・開講時期	1年生・前後期
実施状況					
<p>フィットネス理論・実習では、エアロビクス運動・コンディショニング運動・筋力アップ運動の3領域から身体運動に関する基礎的な理論と実践方法について学ぶことをねらいとしている。エアロビクス(有酸素)運動群は、エアロビクス理論に基づき、ウォーキング・フライングディスク・ディスクゴルフなどを行い、コンディショニング運動群では体力測定を実施し、自分の体力の現状を把握すると共に日常のコンディショニングの方法やストレッチングを学ぶ。また、筋力アップ運動群では日常生活における筋力の必要性を認識して、筋力を高めるための理論と実践方法をテーマに実施している。</p> <p>なお、毎回の授業後、ワークブックに授業の内容を記入し、感想、意見、考察など、自身の課題達成度についてまとめる作業を行っている。</p>					
教員自身の授業評価					
<p>保健体育(スポーツ)において学生が授業を総じて高く評価していることがわかる。しかしながら、少数ではあるが「配布資料や視聴覚教材など、情報提示の仕方が工夫されていたか。」や「教科書、参考文献など、適切な教材が指示されていたか。」の項目において、改善して欲しいと評価を受けた。次年度への改善および、全体的に評価が高くなるよう自身の活動の活性化に取り組んでいきたい。</p>					
これからの授業に対する目標					
<p>20代～40代女性の8割が運動不足と言われている。一般的に「運動習慣がある」とは、「1回30分以上の運動を週2回以上実施し、1年以上続けている」ことを指す。厚生労働省が毎年実施している国民健康・栄養調査では、体重を減らそうとする者の割合は、男性で40.5%、女性で51.6%。しかしながら運動習慣がある人の割合は、男性33.3%、女性27.5%。また20～40代の女性に限っては2割にも満たないという結果になっている。特に女性において、体重は減らしたいけれど運動習慣はほとんどない人が多いというパターンが見えてくる。そこで本授業を通じて自身のライフスタイルや気に入った方法で、運動を習慣化させるためのコツをぜひ取り入れてもらいたい。そして、楽しみながら継続的に運動をすることで心身ともに健康的な生活を送ることができることを目標とする。</p> <p>シラバスについては、学生の指針となるような内容にし、時々到達目標を確認する等シラバスを活用しながら授業を進め方法も取り入れていきたい。</p>					
学生への要望					
<p>自分自身の暮らしぶりが題材となることから、日頃的生活全般にフィットネスの理論が実践できるような積極的・自主的な態度を希望している。さらに、次時の授業前には前回授業の復習を行い、適切な準備</p>					

をすることが望ましい。

科目名	スポーツ理論・実習	科目責任者名	大津 克哉	対象・開講時期	1 年生・前後期
実施状況					
<p>スポーツ理論・実習では、スポーツの持つ特性を活かして健康の維持増進に役立つことができるように、基本技術や戦術はもちろん、ルール・マナー・審判法・歴史などの習得を目指す。2 種目のスポーツを教材として取り上げ、それぞれの種目の実践を通して、以下に示す内容を系統的に学習することを目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) スポーツの歴史的・文化的特性についての理解を深める。 2) 各スポーツの実践を通して、各スポーツの技術特性や系統的な練習方法・習熟過程について理解し、スポーツの持つ“おもしろさ”や“楽しみ方”などを学ぶ。 3) 互いに協力して練習やゲームを進めていく中で、チームワークの重要性、リーダーシップやスポーツマンシップの必要性さらに個人及びチームでのスポーツ活動を行う際の知識と技能を身につける。 <p>なお、毎回の授業後、ワークブックに授業の内容を記入し、感想、意見、考察など、自身の課題達成度についてまとめる作業を行っている。</p>					
教員自身の授業評価					
<p>保健体育（スポーツ）において学生が授業を総じて高く評価していることがわかる。しかしながら、少数ではあるが「配布資料や視聴覚教材など、情報提示の仕方が工夫されていたか。」や「教科書、参考文献など、適切な教材が指示されていたか。」の項目において、改善して欲しいと評価を受けた。次年度への改善および、全体的に評価が高くなるよう自身の活動の活性化に取り組んでいきたい。</p>					
これからの授業に対する目標					
<p>文部科学省が行った「2013 年度 全国体力テスト」の結果によると中学校女子では、体育の時間以外で 1 週間の運動時間「0 分」という生徒が 24%いると報告がされている。小学校女子も「0 分」が 10%もいる。さらには、20 代～40 代女性の 8 割が運動不足であると言われている。これまで、運動をする習慣がない運動時間「0 分」の学生も自分のやりたい種目を見つけ、好きな時間にトライできる環境づくりに勤め、運動しやすい雰囲気づくりを心掛けることを目標とする。</p> <p>シラバスについては、学生の指針となるような内容にし、時々到達目標を確認する等シラバスを活用しながら授業を進め方法も取り入れていきたい。</p>					
学生への要望					
<p>毎回の授業後に学んだことを確認するとともに、課された課題に積極的に取り組むこと。さらに、次時の授業に必要な資料を適切に準備すること。</p>					

科目名	現代医療論	科目責任者名	灰田 宗孝	対象・開講時期	1 年生・後期
実施状況					
<p>病院に関わる種々の職種の理解を深める事を目的として、病院の各部門の長の方に講義をお願いしている。基本的には各講師、しっかり担当部署の説明をしていると思われる。本講義の評価は主として授業後のレポートで行われる。このレポートの採点で、各講師に多大な負担をおかけしていることは否めないが、看護師の業務は文章を書くことが非常に多く、聴いたことを短時間にまとめ上げる訓練にもなると理解している。そのため、期末テストは実施しない。それは、各部門について知っていて欲しいが、試験に出して回答させるような事柄が少ないことにもよる。</p>					
教員自身の授業評価					
<p>講義が多岐にわたるので、各講師の作るレジュメが大切となる。各講師に作るよう依頼しているが、講師によっては、レジュメを作らず、当日の講義を良く聴き、ノートをとって欲しいとの希望をもつ講師もいることから、徹底できてはいない。</p>					

これからの授業に対する目標
病院にはどのような部門があり、どのような働きをしているかを理解してもらうのが目標である。この知識は、必ずしも東海大学医学部付属病院群特有のものではなく、日本の病院すべてで同様の部門が存在する事から、普遍的知識でもある。
学生への要望
<p>講義後 30 分の時間を設けてある。この時間内でレポートを完成させることは、将来の看護業務を考えると、それほど困難なものでは無いと考える。締め切りを翌日まで延ばしても、自宅での時間がこの科目にとられることを考えると、決められた時間内で処理することは決して学生に不利益をあたえているとは考えられない。講義が終わったらレポートを書くことが決められているので、どのようにまとめるかを考えながら講義を受けて欲しい。</p> <p>出席をレポートと別にとるようにとの希望があるが、その意味がわからない。出席していてレポートが出ていない人は成績が付けられないので欠席扱いとなり、出席をとる意味がない。また、逆に出席してなくてレポートが出ている人は、誰かが代筆したことになるが、その様な人は出席をとっても代筆となる可能性があり、意味がない。</p>

科目名	疫学と生活環境	科目責任者名	相川 浩幸	対象・開講時期	1 年生・前期
実施状況					
生活活動内における自然環境との係り及びその生体影響について、日常生活の場を事例に取り入れながら、又国家試験を配慮して講義解説を実施している。					
教員自身の授業評価					
最低限度の講義内容を要約しても、短時間内に多内容の講義のため、しっかりと講義を聴いていない学生には追従し難く、不理解の状態にいる学生がいるのではないかと懸念している。この点を改善する必要性を抱いている。					
これからの授業に対する目標					
講義項目を限定し、時間に余裕を持たせ、解説には更に多くの身近な例題を挙げ、学生が理解できるようにしていきたい。					
学生への要望					
<p>授業中は試験の出題しそうな点のみをプリントにアンダーラインを引くだけではなく、講義に耳を向け（眠らない）、理解できない点は質問をし、講義内容を理解してほしい。</p> <p>日常生活においては、一般社会情勢や社会環境・自然環境等を新聞やテレビ等から情報を興味をもって取得してほしい。</p>					

科目名	人体の構造	科目責任者名	二葉 千鶴	対象・開講時期	1 年生・前期
実施状況					
<p>必修専門教育科目である解剖学及び生理学の講義。人体の構造(解剖学)を学ぶことを通じて、ヒトの体とはどのような構造をしているかをここでは学んでいく。ここで学ぶ内容はヒトを対象とする看護学、医学を学習していくための基本となる知識になるものである。そのためここでの学習内容を十分に把握できないしていると他の授業にも大きく影響し、それら授業内容が理解しにくくなってしまいうほどに重要な基本となる内容であるといえる。</p> <p>この科目では人体の構造、名称などについて理解したり覚えたりしていくが、それらの内容は非常に多くあり、特に重要項目に力をいれつつ、人体の構造を網羅的かつ系統的に学習していく。</p> <p>授業資料は各種教科書を参考に講義の要点をまとめたプリントを配布し、それに沿って授業を行った。1 年次より看護師国家試験を想定し、過去問や問題集から出題傾向を予想。定期試験は出題傾向から作成し国家試験レベルまで習熟できていることを確認した。</p>					

教員自身の授業評価
<p>学生への授業アンケートでは平均 4.69 ポイントと高評価であった。項目別回答を取り上げると「Q11 教員の説明は理解しやすかった 4.78」、「Q18 この授業はわかりやすい授業だった 4.80」、「Q21 この授業を受けて満足した 4.81」と何れも高評価であった。学生に分かり易く、楽しい授業を心掛けてきたが教員が意図したことが学生にも伝わっていると考えている。</p> <p>評価の低い項目別回答は「Q9 この授業においてシラバスは役に立った 4.02」、「Q7 自分で考える姿勢が持てた 4.44」と何れも全体平均より高値であったが、今後の資料作りや授業展開を改良していく必要があると考えている。</p>
これからの授業に対する目標
<p>人体の構造は医学・看護知識の基礎で、ここでの学習が臨床に直接結びつく分野である。看護師国家試験対策だけでなく、臨床現場に必要な基礎知識を身に付けられるよう工夫をしていきたい。また、予習や復習を通し自己学習を促す方法を構築していきたい。</p>
学生への要望
<p>授業の予習や復習を通し自己学習を充実させ、より深い理解を得られるよう努力してほしい。この科目の理解が、これから始まる膨大な医学・看護知識の基礎となります。</p>

科目名	人体の機能	科目責任者名	泉 義雄	対象・開講時期	1 年生・前期
実施状況					
<p>主にプリント配布による授業ごとの概要を提示した。講義は板書を中心にして、特に重要な箇所を重点的に教えている。難しくて分からない学生がいるので、教える内容は精選してゆっくりかなり分かりやすく教えている。</p>					
教員自身の授業評価					
<p>随分と分かりやすい事を心がけている。しかしながら国家試験合格のためには最低限必要なことは教えなければならないと思っている。国家試験問題は毎年自分自身でも解き最新の出題傾向なども知った上で講義している。</p>					
これからの授業に対する目標					
<p>学生の希望に答えるように、大きな字で聞き取りやすく解説をしたいと思っている。ゆっくりと話をし、正確には最近では同じ内容を 2 回は繰り返して説明している。それでも分からない学生がいるのは残念であるが、これ以上レベルを下げれば国家試験問題は解けなくなる。</p>					
学生への要望					
<p>分からないところがあればすぐに聞きに来てほしい。</p> <p>授業でも時間があれば前回の授業を復習しているが、基本的に多くの学生が何も復習していない。まるで今まで学習したことを覚えていない。授業に出れば、それでいいんだというような考え方は改めてほしい。</p>					

科目名	代謝と栄養	科目責任者名	泉 義雄	対象・開講時期	1 年生・前期
実施状況					
<p>主にプリント配布による授業ごとの概要を提示した。講義は板書を中心にして、特に重要な箇所を重点的に教えている。難しくて分からない学生がいるので、教える内容は精選してゆっくりかなり分かりやすく教えている。</p>					
教員自身の授業評価					
<p>随分と分かりやすい事を心がけている。しかしながら国家試験合格のためには最低限必要なことは教えなければならないと思っている。国家試験問題は毎年自分自身でも解き最新の出題傾向なども知った上で講義している。</p>					

これからの授業に対する目標
学生の希望に答えるように、大きな字で聞き取りやすく解説をしたいと思っている。ゆっくりと話をし、正確には最近と同じ内容を2回は繰り返して説明している。それでも分からない学生がいるのは残念であるが、これ以上レベルを下げれば国家試験問題は解けなくなる。
学生への要望
分からないところがあればすぐに聞きに来てほしい。 授業でも時間があれば前回の授業を復習しているが、基本的に多くの学生が何も復習していない。まるで今まで学習したことを覚えていない。授業に出れば、それでいいんだというような考え方は改めてほしい。

科目名	感染と防御	科目責任者名	泉 義雄	対象・開講時期	1年生・後期
実施状況					
主にプリント配布による授業ごとの概要を提示した。講義は板書を中心にして、特に重要な箇所を重点的に教えている。難しくて分からない学生がいるので、教える内容は精選してゆっくりかなり分かりやすく教えている。					
教員自身の授業評価					
随分と分かりやすい事を心がけている。しかしながら国家試験合格のためには最低限必要なことは教えなければならないと思っている。国家試験問題は毎年自分自身でも解き最新の出題傾向なども知った上で講義している。					
これからの授業に対する目標					
学生の希望に答えるように、大きな字で聞き取りやすく解説をしたいと思っている。ゆっくりと話をし、正確には最近と同じ内容を2回は繰り返して説明している。それでも分からない学生がいるのは残念であるが、これ以上レベルを下げれば国家試験問題は解けなくなる。					
学生への要望					
分からないところがあればすぐに聞きに来てほしい。 授業でも時間があれば前回の授業を復習しているが、基本的に多くの学生が何も復習していない。まるで今まで学習したことを覚えていない。授業に出れば、それでいいんだというような考え方は改めてほしい。					

科目名	臨床病態学 I	科目責任者名	泉 義雄	対象・開講時期	1年生・後期
実施状況					
主にプリント配布による授業ごとの概要を提示した。講義は板書を中心にして、特に重要な箇所を重点的に教えている。難しくて分からない学生がいるので、教える内容は精選してゆっくりかなり分かりやすく教えている。					
教員自身の授業評価					
随分と分かりやすい事を心がけている。しかしながら国家試験合格のためには最低限必要なことは教えなければならないと思っている。国家試験問題は毎年自分自身でも解き最新の出題傾向なども知った上で講義している。					
これからの授業に対する目標					
学生の希望に答えるように、大きな字で聞き取りやすく解説をしたいと思っている。ゆっくりと話をし、正確には最近と同じ内容を2回は繰り返して説明している。それでも分からない学生がいるのは残念であるが、これ以上レベルを下げれば国家試験問題は解けなくなる。					
学生への要望					
分からないところがあればすぐに聞きに来てほしい。					

授業でも時間があれば前回の授業を復習しているが、基本的に多くの学生が何も復習していない。まるで今まで学習したことを覚えていない。授業に出れば、それでいいんだというような考え方は改めてほしい。

科目名	臨床病態学Ⅱ	科目責任者名	二葉 千鶴	対象・開講時期	1年生・後期
実施状況					
<p>必修専門教育科目である疾病の成り立ちと回復の促進の講義。神経疾患、血液疾患、内分泌疾患、アレルギー・自己免疫疾患、精神疾患の分野を担当した。臨床現場において、患者の疾患について理解することは基本事項であり、患者を看護する前に十分理解する必要がある。本講義は、各領域においての主要かつ重要な疾患について系統的に学んでいくものである。講義内容としては各領域の主要疾患を中心とし進め、その疾患の機序、成り立ちなどの病態を十分に理解した上で、その疾患の症状、必要な検査、治療方法などを、実際の臨床上の症例などを豊富にとりあげ学んでいく。</p> <p>授業資料は、各種教科書を参考に講義の要点をまとめたプリントを配布し、それに沿って授業を行った。1年次から看護師国家試験を想定し、過去問や問題集から当該問題を抽出し練習させ、定期試験で国家試験レベルまで習熟できていることを確認した。</p>					
教員自身の授業評価					
<p>学生への授業アンケートでは平均 4.78 ポイントと高評価であった。項目別回答を取り上げると「Q11 教員の説明は理解しやすかった 4.85」、「Q12 教材（教科書、配布資料、視覚資料）は適切だった 4.83」「Q13 学生の反応や理解度を考慮しながら授業を進めていた 4.81」「Q18 この授業はわかりやすい授業だった 4.84」、「Q21 この授業を受けて満足した 4.85」と何れも高評価であった。学生に分かり易く、楽しい授業を心掛けてきたが教員が意図したことが学生にも伝わっていると考えている。</p> <p>評価の低い項目別回答は「Q9 この授業においてシラバスは役に立った 4.45」と何れも全体平均より高値であったが、今後の資料作りや授業展開を改良していく必要があると考えている。</p>					
これからの授業に対する目標					
<p>臨床病態学Ⅱは各種内科疾患と精神疾患の基礎で、ここでの学習が臨床に直接結び付く分野である。看護師国家試験対策だけでなく、臨床現場に必要な基礎知識を身に付けられるよう工夫をしていきたい。資料についてもより理解を深めるものに改良していきたい。さらに、予習や復習を通し自己学習を促す方法を構築していきたい。</p>					
学生への要望					
<p>授業の予習や復習を通し自己学習を充実させ、より深い理解を得られるよう努力してほしい。この科目の理解が、これから始まる臨床現場での学習に大いに役立ちます。</p>					

科目名	看護学概論	科目責任者名	中田 芳子	対象・開講時期	1年生・前期
実施状況					
<p>看護学概論は、看護学の全体を紹介する科目と考えている。まずは、建学の精神と本学の看護教育について説明し、次に看護の原点であるフローレンス・ナイチンゲール、ヴァージニア・ヘンダーソンについてそれぞれの著書をグループで読み解きながら看護についての考え方を学修する。</p> <p>さらに、看護の対象である人間について、身体面、心理面、社会面、スピリチュアルな側面からの見方を紹介する。続いて、看護実践と関連する看護技術、倫理、法、看護過程等について学ぶ。これらの内容は、以降の科目でさらに深く学ぶことになるが、この科目で動機づけになることを目標にしている。</p>					
教員自身の授業評価					
<p>項目別回答では、「Q8 この授業の学習目標は達成できた」は 3.61 と平均より低く、「Q19 授業全体の目標が明確だった」も 3.77 であった。看護学全体の紹介という科目であり、広く浅いテーマになってしまったことが考えられる。さらに「Q9 この授業でシラバスは役に立った」が 3.32 であり、科目責任者として、</p>					

<p>何をこの科目で伝えたいのかを精選して、シラバスにもわかりやすく明記していくことが必要と考える。</p> <p>また、「Q7 自分で調べ考える姿勢が持てた」3.65、「Q20 この授業で学問的興味をかきたてられた」3.77 であり、学生への自己学習の動機づけや課題のテーマや時期や方法を工夫して、看護学への関心が向けられるような科目の組み立てを今後考えていく。</p> <p>「Q17 教員の熱意が感じられた」4.11、「Q15 教員の話し方、声の大きさは聞き取りやすかった」4.69 と全体平均より高かった。また、自由記載にも「看護とは何かを深く考えることができた」「看護についての知識が増えた」とあり自分自身の体験や患者家族としての体験をふまえた看護への思いを伝えることは学生にも伝わっていたことわかったので、今後も意図的に看護への思い等について授業の中で伝えていきたい。</p>
<p>これからの授業に対する目標</p> <p>看護学を紹介し、以降看護学を学ぶ動機づけをする科目として、到達目標を明確にして、授業内容を精選して行きたいと考える。ローレンス・ナイチンゲール、ヴァージニア・ヘンダーソンの著書に触れる時間を多くし、これからの学修の中でも看護の原点として振り返れるようにしていきたい。そのため、1年生には難しいかもしれないが「看護覚え書」に関しては、読後感の課題を提示していく。シラバスにも課題を明確に標記し、時々進行状況を確認するなどしながら活用方法を指導していきたい。また、課題については、学生の学修の動機づけとなるような内容を選び、他の科目との重複も考え、学生の負担感が少しでも軽減できるよう考え、提示していく。</p>
<p>学生への要望</p> <p>看護学概論は、「看護を学ぶことに興味を持ってもらう」ことを目標にしています。授業内で読む著作はもちろんのこと、授業内で紹介する著作にも積極的に触れてほしいと思います。そして、この科目で出てきたキーワードは正しく理解し、以降の他の科目を学ぶ際には活用できるようにしてほしいです。看護は、サイエンスでありアートです。看護について学び続ける姿勢を持ってほしいと考えています。</p>

科目名	看護アセスメント I	科目責任者名	蔵本 文乃	対象・開講時期	1 年生・通年
実施状況					
<p>看護アセスメント I は、主にバイタルサインとフィジカルアセスメントについて学習する科目である。技術習得が必須となるため、講義と演習を交互に行うように授業を組み立てている。講義では、クイズを出題し、学生が参加できる工夫や、演習で行う内容の基礎知識や方法について説明し、演習の事前学習を講義内で行える工夫をしている。また、演習前に事前学習を踏まえた知識確認テストを実施することで、事前学習を踏まえた自己学習の動機づけを行っている。さらに、演習ではイメージがつくようにフィジカルアセスメントモデルを使用し、デモンストレーションを行ったり、実際の音を聞きながら正常と異常を区別するためのポイントを説明し学生の技術習得に努めている。</p> <p>技術試験では、全ての項目の技術習得を行うために、当日にくじ引きで実施する技術を決定したり、各技術の難易度の不公平をなくすために模擬患者役の工夫を行っている。</p>					
教員自身の授業評価					
<p>項目別回答では、平均より低い項目はなかったが、「Q9 シラバスは役立った」が 4.21 と一番低く、「Q8 授業の学習の到達目標は達成できた」が 4.27 と次に低かった。シラバスは、オリエンテーションで使用し活用方法についても説明を行っているが。実際に使用したのは 1 回だったため、学習方法といった具体的な内容も入れて折に触れ活用していく。学習の到達目標の達成については、技術試験が後期試験期間にあるため学生自身が学習目標の達成を自己評価するのは難しかったのではないかとと思われる。</p> <p>反対に、4.55 以上あった項目は「Q12 教材は適切だった (4.60)」「Q21 この授業を受けて満足した (4.57)」「Q13 反応や理解度を考慮しながら授業を進めた (4.56)」「Q10 授業の内容は明確だった (4.55)」「Q11 教員の説明は理解しやすかった (4.55)」であった。自由記述にも授業資料や演習のデモンストレーション、講義中に行うクイズに関する内容があり、学生の五感に働きかける授業ができたと考える。また、質問し</p>					

たり感想を述べる時間があつたという内容の自由記述もあり、双方向の授業を展開できたと考える。
これからの授業に対する目標
学生が理解できる授業を目指し、今後も資料や機材を活用し授業を行っていく。知識の習得については、テストやその振り返りを行い知識が定着するように継続する。また、学生がモデル人形を自己学習に活用し施術の習得ができることを目指す。シラバスの効果的な活用を目指し、折にふれ学習の到達目標の意識づけを行ったり、予習復習や自己学習のポイントを具体的に載せ活用を促す。
学生への要望
身体について理解するには、一般的な知識と自分自身の身体をよく知る必要があります。そのため、解剖学や生理学で学習した既習の知識を活用できるように予習し、その知識が定着するように復習に努めましょう。また、学習した内容を踏まえ、自分の身体も観察しましょう。バイタルサインやフィジカルアセスメントは、臨床応用の基盤となる技術で、手と目と耳で自分自身や対象者を理解することができます。だから、積極的に学習していきましょう。

科目名	看護アセスメントⅡ	科目責任者名	蔵本 文乃	対象・開講時期	1年生・後期
実施状況					
<p>看護アセスメントⅡは、看護過程の前半部分看護問題の明確化までを行う。学生は、初めて看護過程について学習するため、看護過程の前半部分の一連の流れについてマイコプラズマ肺炎の事例を用い講義を行い、その後、急性骨髄性白血病の事例を用い実際に展開するという演習方式で授業をしている。</p> <p>看護過程の展開には、基礎的な知識が必要となるため、マイコプラズマ肺炎の事例から看護過程を展開するために必要な知識の自己学習を行い、自分で調べるという意識づけを行っている。また、課題が多くなるため、提出日の予定をあらかじめ学生に示し、学習計画を立ててもらっている。</p> <p>演習はグループで行うが、個人で提出する。教員は、学生が、看護過程に対して苦手意識を持たないように、大変だけど、対象を理解して「看護」を行うためにはなくてはならないもの、という説明を行い、学生の課題には必ず目を通し、コメントし、一緒に頑張る姿勢を見せている。</p>					
教員自身の授業評価					
<p>項目別回答では、平均より低い項目はなかったが、「Q9 シラバスは役立った」が 4.00 と一番低く、「Q8 授業の学習の到達目標は達成できた」が 4.38 と次に低かった。シラバスは、オリエンテーションで使用し活用方法についても説明を行っているだけである。全体平均でも一番得点が低いため、学生に意識づけを行う必要がある。学習の到達目標の達成は低めではあるが、「Q5 自分にとって新しい考え方、発想がもてた 4.60」「Q7 自分で調べ考える姿勢がもてた 4.59」「Q21 この授業を受けて満足した 4.58」の3項目が全体的にも高く（平均得点よりも 0.4-0.5 ポイント高い）、学生の満足度や達成感はあると考えられるので、本科目の到達目標の意識付けを行う必要があると考える。</p> <p>自由記述は 15 件あつたが、良いストレスサーになり成長できたや難しかったけど今はそれが楽しかったと思えるといった、大変な課題を乗り越え自己成長できた事を示すような記述が多かった。これらの記述や得点が高かった項目から看護過程が理解できたという評価はできないが、学生は「嫌だ」「大変だ」という思いを持ちながらも真摯に授業に取り組むことができたと考える。また、「こころよく質問に答えてくれた」「コメントが役立った」といった自由記述や「Q17 教員の熱意 4.56」「Q14 質問や相談ができる 4.55」という得点から、学生自身が自己成長できたと感じられたのは、演習を担当した教員の丁寧な対応も一つの要因であると考ええる。</p>					
これからの授業に対する目標					
<p>難しい、大変という言い伝えがある看護過程の導入部分であるため、学生に理解しやすい授業を行う。アセスメントの部分では特に既習の知識を関連させて考えるよう心掛け、自分で調べて考える姿勢や考えて分かる楽しさを伝えていきたい。</p> <p>また、回答した 85 名中 56 名の学習時間は 2 時間以上であつた。本科目の課題に多くの時間を使ってい</p>					

る。学生の大変さを理解しながら、それぞれレベルが違う学生一人ひとりに対応していけるように教員間でもコンセンサスを得る。
学生への要望
多くの学生が「大変」と恐れる授業ですが、『看護』を実践するためには大切な授業です。考えの進め方を理解することに努めながら、自分が考えた過程を丁寧に表現し、対象の状態を理解していきましょう。自分で考えて理解するという楽しさを感じられることを期待しています。「大変」な授業の先には大きく変わった自分がいます。

科目名	看護の基本技術 I	科目責任者名	岩屋 裕美	対象・開講時期	1 年生・前期
実施状況					
<p>看護の基本技術 I は、看護実践の基盤となる「看護とコミュニケーション」「感染予防」という異なる 2 つの内容で構成されている。「看護とコミュニケーション」では、学生が自分のコミュニケーション方法を見つめ、援助的なコミュニケーション方法を考えられるよう、講義にロールプレイやディスカッションを多く取り入れている。コミュニケーション技術が言葉の技術に陥らないよう、演習にはニューカウンセリングの要素を取り入れ、学生の感じる力を高められるようにしている。また、2015 年度からは臨床のコミュニケーション場면을模擬的に体験できるよう、臨地実習指導者と教員が患者役を演じる演習を計画した。これは、年代の異なる相手とコミュニケーションをとること、患者役や観察した学生のフィードバックにより自己のコミュニケーション方法を振り返ることをねらっている。</p> <p>「感染予防」は入学後間もない学生が目に見えない病原体や感染経路をイメージできるよう、映像・画像を講義に多く取り入れている。「感染予防」は 3 回の演習の中で手洗い、防護用具の着脱、洗浄消毒、無菌操作という多くの内容を行うため、事前学習に自作の看護技術動画を取り入れ、事前に技術のイメージを持てるようにしている。</p>					
教員自身の授業評価					
<p>感染予防は講義後・演習前後に課題を出していたが、Q2 の学習時間は 0 時間が 17 名であった。Q2 の問いの捉え方が学生によって異なっていた可能性がある。項目別回答では、Q9「シラバスは役立った」が最も低い値であった。初回講義時にシラバスを使って科目全体の説明を行ったが、学期途中では用いなかったため活用方法が伝わらなかったと考える。Q8「到達目標は達成できた」も平均値より低い値であった。感染予防の消毒法や無菌操作を理解するためには「無菌の組織」という概念や消毒対象となる様々な器具の使用目的や使用部位がわかる必要がある。しかし、「人体の構造」や「感染と防御」、その他関連科目の進度をみると、感染予防を行う 4 月～5 月の時期は、消毒法や無菌操作を理解するための講義が未履修である。学生にとって消毒法や無菌操作の難易度はかなり高かったと予想され、「到達目標が達成できなかった」と評価した学生が多いのではないかと考える。また、未履修の内容を講義に入れるようにしていたため、自由記載にあるように「スピードが早い」「資料が多い」ということが生じていた。改善が必要と考える。</p>					
これからの授業に対する目標					
<p>感染予防に関しては、関連科目の進度を考慮した単元の配置が必要であるため、2016 年度から洗浄消毒・無菌操作は後期に配置し、感染予防の基本であるスタンダードプリコーションを重点的に学習できるようにする。コミュニケーション、感染予防ともに講義内容を精選するようにし、学生のレディネスに合った授業内容を考えていきたい。</p> <p>シラバスは単元の区切りで活用し、学生の学習計画や目標の到達度を確認していきたい。</p>					
学生への要望					
<p>コミュニケーション・感染予防は基本的な看護技術ですが、奥深いものがあります。この科目では基本的な部分を学習しますが、今後も興味を持って深めていき、面白さを感じてほしいと思っています。</p>					

科目名	生活過程を整える看護技術Ⅰ	科目責任者名	久保 典子	対象・開講時期	1年生・前期
実施状況					
<p>講義と演習の二本立てで授業を展開している。講義は重要語句の穴埋めのプリントを設け、学生が講義内容を聞いて新出の重要語句を書き込みながら覚えられるように心掛けた。学生の自由記述に「穴埋めのプリントが理解しやすかった」と反応があり、理解を促す一助になったと考えられる。演習は2か所の実習室にグループ分けを行って実施するが、講義の内容によって実習室の場所や、グループ内のパートナーを調整しながら演習を進めた。単に手順を覚えるのではなく、なぜその手技が必要なのか、科学的根拠をふまえて学生が説明できるよう、デモンストレーション時に質問を行うなどした。演習は座学では理解しづらいことを体験しながら学べるよう心掛けた。</p>					
教員自身の授業評価					
<p>項目別回答では「Q15 教員の話し方、声の大きさは聞き取りやすかった 4.32」「Q18 この授業はわかりやすい授業だった 4.31」の評価を得たが、自由記述にも「分かりやすく楽しい授業だった」「説明が分かりやすかった」と回答を得た。入学して間もない学生が90分の講義に飽きることがないように、教員の臨床でのエピソードをふまえて説明したり、授業が単調にならないように、約15～20分区切りで「書く、聞く、読む、観る」を切り替えながら進行したりするよう心掛けた。「90分が長く感じられなかった」と授業後の感想に書いた学生がおり、ある程度の効果は得たと考えられる。演習については、学生から「演習がたくさんできたのは実技の習得のみならず、看護ケアを考える上でも役に立って良かったと思う」「演習で実技を学ぶことが出来て良かった」と回答があり、学生が意欲的に学習できる環境は提供できたと考える。</p>					
これからの授業に対する目標					
<p>講義の際に視聴覚教材をさらに効果的に取り入れ、学生が初めて習う項目についてイメージしやすい環境を整備する。また、学生が習得した技術で対象者の安楽を図るように工夫し、安全確認を怠ることによって起こりうるリスクについても考えられるよう、思考を発展させる学習環境を整えることが今後の更なる目標である。</p>					
学生への要望					
<p>演習の時に、事前の学習資料を持参しない、または持参しても活用しない学生がいます。演習の時間を有意義に過ごせるようにきちんと学習の準備をしましょう。予習復習に有用な内容で、技術の動画を作成しています。キャンパスメイトで動画配信の期間をお知らせしています。しかし、配信された動画を観ないまま、演習に参加したり、技術試験に向けての自己学習に活用せずに過ごしたりしている人がいます。キャンパスメイトのお知らせを毎日閲覧する習慣をつけましょう。そして、タイムリーに情報を活用して下さい。</p>					

科目名	生活過程を整える看護技術Ⅱ	科目責任者名	山口 由子	対象・開講時期	1年生・後期
実施状況					
<p>清潔、食事、排泄に関わる看護技術に関して講義で生活過程を整える意義を理解し、演習で技術を実施し習得できるように構成している。学生は援助計画を作成して演習に臨み、デモンストレーション後学生同士で実施し、終了後に援助計画用紙を用いて振り返りを行っている。2人1ベッド、中に3人1ベッドで実施し、実習時間内に全員が体験することを目指している。初めは手順通りに実施することで精一杯であるが、根拠を考えながら実施する様に促している。そして患者役の反応を見ながら安全・安楽・自立に配慮した援助の実施を意識づけている。</p> <p>生活援助のすべての項目を実施後、事例を用いて援助を実施している。そのことによって患者の状態に合わせて援助計画を立案し、反応を見ながら実施することの重要性を理解し実習に繋げられるように考えている。</p>					

教員自身の授業評価
<p>全体のポイントは 4.36 であった。全項目で全体平均よりやや高かった。授業以外の学習時間は演習の事前・事後学習の援助計画を書き提出する課題を課していたため、2 時間以上の学生が半数を超えていたが、0 時間の学生も 19 名いた。実習では患者に実施する機会が多い技術であるため、学生自ら学習し患者に合わせて実施できるようにするための工夫がさらに必要である。自由記載で「演習が楽しかった」との意見があり、看護師役・患者役を体験しながら楽しく実施できたと思われる。一方で「演習をもっと個別で見たい」との意見があった。一人の教員が 10～12 名を担当するので、学生一人一人を演習時間内に十分に指導するには限界がある。</p>
これからの授業に対する目標
<p>学生が生活援助技術に興味を持ち、自ら根拠を考えて実施することができるような授業・演習ができるように工夫していきたい。そのために実験的な要素を含めて演習を楽しく実施できるようにする。また、技術の習得を促進させるために、ビデオを作成し事前にイメージしたり自宅でも学習したりできるように工夫していく。生活を整えそのことによって患者の QOL が高められるような、実習で生かされる看護技術を身につけられるようにしていきたい。</p>
学生への要望
<p>生活過程を整える看護技術Ⅱで取り上げる看護技術は、患者の生活援助に関わる基本的な技術であり、実習において患者に実施する頻度が高いものです。したがって事前学習をして演習に臨み、演習中は確実に技術を実施し重要なことは事後学習で振り返りをする必要があります。これらの技術は授業が終わったら終わりではなく、実習までに繰り返し練習することを望みます。</p>

科目名	成人看護学概論	科目責任者名	丹澤 洋子	対象・開講時期	1 年生・後期
実施状況					
<p>ライフサイクルの中の成人期にある人の成長・発達の特徴、生活と健康、及び成人を取り巻く保健・医療・福祉政策と成人看護の役割、また、成人期にある人の理解を踏まえた上で効果的なアプローチをするために、活用可能な理論についての講義をした。さらに、学生各自が身近な成人期の人を対象とし調査を行い、その情報もとにグループワークをし発表を通して成人期にある人の理解を深めた。</p>					
教員自身の授業評価					
<p>授業アンケートにおいて、全項目において全体評価より低い評価結果であった。</p> <p>成人期における対象について学習した一般論を踏まえ、学生各自が身近な成人期の人を対象とし調査を行うことで、成人期の特徴の理解を深めてほしいという意図があったが、何をどのように調査するのが学生に十分に伝わっていなかったと考えられる。しかし、最終レポートにおいては、一連の学習により成人期の特徴について学んでいたことを伺えた。成人期にある人への効果的なアプローチをするために活用可能な理論の学習については、理論の理解が十分でないことにより、事例への活用が難しく学かったのではないかと考える。</p>					
これからの授業に対する目標					
<p>講義で学習した成人期の特徴としての一般的な傾向を踏まえつつ、目の前にいる対象のその人自身から発せられる情報を捉え、アセスメントし成人期の特徴を深めていく。</p> <p>成人期にある人への効果的なアプローチをするための各理論について概要を理解すること。そして、活用することで、対象の理解とともに援助の方向性について考えられる授業とする。</p>					
学生への要望					
<p>シラバスに回ごとに講義内容が記載されていますので、予習を行い授業に臨んでください。また、復習することで学習した内容の理解につとめていきましょう。</p> <p>青年期については、学生自身について考えることや、友人を通して学ぶことができます。また、壮年期以降の人については身近な存在である両親から学ぶこともできます。このように周囲の人を通して、成人</p>					

期にある人はどんな人なのかと興味を持ち学んでほしいと思います。

科目名	老年看護学概論	科目責任者名	鈴木 陽子	対象・開講時期	1年生・後期
実施状況					
<p>老年看護学概論の学習目標は、ライフサイクルの最終ステージである老年期の特徴と、高齢者のより健康的な生活を支えるための看護の役割・機能を理解することである。加齢に伴う変化や健康障害がどのように高齢者の日常生活に影響を及ぼすのかを理解し、高齢者を取り巻く社会構造や保健・医療・福祉の現状と高齢者を支える社会システムにも理解を深めることを目指している。そのため、科目目標と学習内容と進度、各授業単元の到達目標を明確にして授業を進めた。</p> <p>高齢者と同居の学生は減少しており高齢者の特徴が掴み難い状況であるため、できるだけ具体的なイメージ化を図ることを目的として高齢者イメージマップ作成や高齢者疑似体験の演習を組み入れている。高齢者疑似体験とグループ発表の単元は前半の授業として、高齢者役割と援助者役割を交互に実施し身体機能や動作の特徴と援助の工夫等を体験的に学ぶとともに、学生間でのディスカッションを通しさらに深めていくことができるようにした。これら演習においては、学生は非常に積極的であり授業参加姿勢は活発であった。高齢者イメージマップや高齢者疑似体験等の体験的な学習をその後の授業に繋げていった。</p> <p>しかし、中盤以降の授業である高齢者の身体的特徴、社会的特徴と高齢者を支える社会制度や社会資源等の詳細で具体的な内容の学習内容は、興味・関心がやや低下している様子が伺えた。これについては、計画した学習内容の分量が多く、各単元の学習内容が過密で授業形態が単調であったと考える。授業終盤の冬期休暇前より定期試験に向けた学習の取り組みを指導したこともあり、試験成績は比較的良い結果であった。</p>					
教員自身の授業評価					
<p>項目別回答において、全体の中でも特に低い項目は「Q5 自分にとって新しい考え方、発想がもてた」、「Q7 自分で調べ考える姿勢がもてた」、「Q18 この授業はわかりやすい授業だった」、「Q19 授業全体の目標が明確だった」を挙げることができ、学習者としてやや満足度の低い授業となっている。これについては、実習等で高齢者疑似体験演習の単元を調整したことや、前半の「高齢者の加齢に伴う身体的変化の特徴」の授業単元を予定より時間を多く費やしたこともあり、後半の授業単元が過密になってしまった。それらの要因により各単元の授業の進め方を早めてしまい、学習内容によってはわかり難いものとなってしまったと考える。併せて、授業担当教員として一方的な進め方となってしまったことも否めない。</p> <p>自由記載では、「説明がわかりやすかった」という良かった点の意見もあるが、「授業範囲がギリギリだった」等の過密な授業に対する否定的な意見もあった。また、授業資料はパワーポイントと連動させ工夫したが、全体的に分量が多かったと考える。</p>					
これからの授業に対する目標					
<p>高齢者イメージマップ作成や高齢者疑似体験の演習は、高齢者看護への興味・関心を高める授業全体の導入の役割を果たしており継続していく。また、高齢者疑似体験のグループ発表に加え、学生が社会の中での高齢者に関連する現象を取り上げたグループワークと発表する機会を授業に組み入れていく。課題に対するグループワーク、発表とディスカッションにより理解を深める機会を増やし、できるだけ主体的な参加型の授業形態を工夫していく。</p> <p>学習内容が広範囲であり授業が過密になる傾向があるため、各単元の教授内容を精選し授業設計する。また、授業時間内の学習内容と自己学習内容を整理し、各単元の予習・復習として自己学習時間に充当できるように課題と参考資料を提示する。そして、学生の各単元の学習内容の理解度・定着状況を確認するために小テストを取り入れる。</p>					
学生への要望					
<p>日常の生活の中でも高齢者に関心を持ち、授業中の学習と関連付けて思考できるようにしましょう。社会の中での高齢者に関連する課題を身近なものとして捉え、看護の果たす役割を考えていきましょう。</p>					

科目名	小児看護学概論	科目責任者名	湊田 明子	対象・開講時期	1年生・後期
実施状況					
<p>この授業では、成長・発達が著しい子どもと家族について、乳児期・幼児期・学童期・思春期に発達段階別に各期の特徴が理解できるように授業を行っている。また、子どもを取り巻く社会との関連を考えられるようにし、自身がいずれ子育てするときにも役立てることができ、支援に繋がられるようにしている。</p> <p>近年の学生は子どもと実際に接したことが少ないことを踏まえ、動画で子どもの動きなどを確認できるようにしている。さらに自分の幼少期を思い出しながら成長発達が理解できるように授業を実施している。</p> <p>演習では乳児のおむつ交換の方法や調乳の実施、離乳食の試食、抱っこ・ベビーカーでの移動などを実施し体験として子どもへのケアを理解できるようにしている。</p> <p>レスポンスシートを活用し学生の理解度や学生自身で毎回の学習の整理が出来るようにしている。</p>					
教員自身の授業評価					
<p>学生は動画や本の読み聞かせなど視聴覚に訴えるものは心に響いている様子であった。配布資料も学生自身が学んだことを追加できるよう工夫したがうまく活用できている学生もいるため、継続していく。</p> <p>様々な取り組みにより、教科に対して興味をもつ学生がいた反面、「Q8 学習の到達目標の達成度」は十分とはいえず、また、Q9 シラバスの活用度も低いため、今後はシラバスに具体的な内容も提示し予習を行いやすくし、目標の達成度が上がるようにしていく必要がある。</p> <p>ほぼ毎回、レスポンスシート記入とそれに対するコメントを残しているが、自由記載で学生は「理解した内容と授業内容の一致を確認するために役立っている」「理解が深まるなど」の評価があるため継続していく。</p>					
これからの授業に対する目標					
<p>小児に対する苦手意識を持たないような授業を工夫し、子どもに対して社会的視点から見られるよう今後もタイムリーな話題から繋げて考えられるようにしていく。</p> <p>また、シラバスの標記の工夫と授業半ばでの目標確認などを行い、自己の学習の進捗を実感できるようにしていく。</p>					
学生への要望					
<p>自分自身の小児期を振り返り思い出しながら学び、また、日常の中で子どもを見かけたら成長発達の視点から観察してみることを心がけることで楽しく授業を受けることができます。覚えなければならないこともたくさんありますが、小テストを活用したり普段の復習をすることで理解が深まっていきます。</p>					

科目名	精神看護学概論	科目責任者名	大貫 美奈子	対象・開講時期	1年生・後期
実施状況					
<p>「人間の精神とは何か」を考え、全人的にとらえる精神看護学の視点や精神の健康について保持・増進・回復するための支援およびケアの基盤を学習した。特に対象のとらえ方と現象の見方・考え方の基礎的学習とその人のもてる力を引き出し、その人らしく生活することを支える援助者としての自己活用について考え、精神看護学に関連する法制度や倫理観を含めて学習を行った。</p>					
教員自身の授業評価					
<p>突然の科目担当の変更に伴い、学生に不安を与えた部分もあったと考えるが、授業としては、精神看護学の基本概念を学習することに重点をおき、心の健康、自我形成、自己理解や他者理解、グループワークを取り入れた看護展開の教授を行い、学生の授業評価アンケート結果からも概ね理解ができたという評価を得られている。</p>					
これからの授業に対する目標					
<p>学生が精神看護学における対象を精神疾患の有無だけで考えず、自分も含めた全人間が対象であることを理解できるように精神看護学の基盤としてわかりやすく、学習を深められるような教授方法への工夫を行い、実践していくことを目標とする。</p>					

学生への要望
予習および復習を積極的に行ってほしい。

科目名	基礎看護学実習 I	科目責任者名	久保 典子	対象・開講時期	1 年生・後期
実施状況					
初めての臨地実習である。5 日間の実習期間で見学が中心であり、学生は緊張も強かった。夏休み明けすぐの実習で、学生の中には気持ちが実習に向いていない傾向があった。また、実習の目標を理解しないまま実習に来ている印象もあったが、指導によって実習に集中することができた。最終的には全員が実習目的・目標を達成することができた。					
教員自身の授業評価					
項目別回答では「Q12 臨床指導者の指導は理解しやすかった 4.84」と「Q14 指導者は話しやすい雰囲気を作っていた 4.84」の評価が高く、自由記載の回答でも「臨床指導者と先生が親身になって指導してくれた」という意見が多数あった。指導者と教員の事前の打ち合わせによって指導の方向性を確認でき、協力しあう体制を整えていることが、学生からの指導に対する高評価の要因と考えられる。「Q4 自分にとって新しい考え方、発想がもてた 4.82」の評価も高く、学生が臨地実習を経験することで看護学生としてのみならず、人としても成長できたと手ごたえを感じている。初学者がポジティブな気持ちで実習を終えられていることは、今後の臨地実習への弾みにもなると考える。					
これからの授業に対する目標					
学生が実習に向けて自己目標を明確にできるように、実習の直前にもオリエンテーションを設け、教員と顔合わせを行うよう、日程の調整が必要である。また、実習直前の学内オリエンテーション時に、学生は記入した実習計画表を持参するようにして、教員が事前に目標をチェックできるよう調整を行うようにする。「Q18 参考文献等、適切な教材についてアドバイスがあった。4.06」が評価の最も低い項目であったが、学生が活用しやすい文献について紹介することも検討する。					
学生への要望					
初めての臨地実習で、緊張することもあるかと思いますが、実習要項をよく読んで、自分がこの実習でどのような視点を養いたいのか、自分の言葉で説明できるようにしておくことは大切です。今の自分なりの考えを具体的に伝えられるように、目標をきちんと立てて事前に頭を整理しておきましょう。 例年記録に誤字が多いので、辞書を手元に置いて文章を作成しましょう。 季節の変わり目の実習です。睡眠不足で体調を崩さないよう、時間の使い方を工夫しましょう。 実習期間中も栄養の偏りがない様に 3 食きちんと摂るようにしましょう。					